

エスペラント語

=== 国際共通語 *la Lingvo Internacia Esperanto* ===

入門 短期集中講座

2018 年 10 月 18 日、25 日、11 月 1 日 [木曜夜 全 3 週]

未知の「言語」を学んで、年賀状に使おう

背景・基礎文法・日本語との違いなど、エスペラント語の全体像を概観する講座

「エスペラント語」は、発音もアクセントも例外がなく、動詞の活用も単純で例外なし
それなのに、日常生活から科学・芸術などまでに対応した語彙や表現力を持つ、人間的な言語です
3 回で、発音・アクセント・動詞の活用から自己紹介、エスペラント語での年賀状まで学びます

===== ★ == ★ == ★ =====

★日時：2018 年 10 月 18 日、25 日、11 月 1 日(毎木曜・全3週) 18:30～20:30

★会場：エスペラント会館 4 階教室(エレベーターなし)

東京メトロ東西線「早稲田」駅下車徒歩 2 分(出口 1 番の早稲田通りをはさんだ向かい側)

★対象：中学校卒業以上(A～Zのアルファベットの文字を知っている人)で、全週出席できる人
(視覚障害者の学習希望にも対応するので、遠慮なく問い合わせを)

★受講料(教材費含む)：一般 1,000 円、学生 500 円、高校生無料

★講師：菊島和子(Krizantemo)

★問合せ・申込み先： Rond・Korn

電子メール： korno@esperanto.ne.jp

ファクシミリ： 03-3429-5196 電話： 03-3429-5173 (きくしま)

●「入門短期集中講座」修了後の学習： 同曜日・同時刻・同会場で学習を継続できます

エスペラント語 入門本格講座 (2 時間×7 週=14 時間)

2018 年 11 月 8 日～12 月 20 日(毎木曜・全7週) 18:30～20:30

★主対象：「エスペラント語 入門短期集中講座」修了者

(「入門短期集中講座」を受講できなかった方も、遠慮なく問い合わせを。解説プリントや補習で支援する)

★受講料(教材費、必要な場合の補習を含む)：一般 3,000 円、学生 1,500 円、高校生無料

●「入門本格講座」修了後の学習： 同曜日・同時刻・同会場で学習を継続できます

エスペラント語 初級講座 Katrina シリーズ 3 部作を読破して実用力を獲得するクラス

2019 年 1 月 11 日～7 月 25 (1 期 8-10 週で全 3 期) 毎木曜 18:30-20:30

★受講料(別に教材実費 1 期 1,000 円程度)：1 期ごとに 一般 4,000 円、学生 2,000 円、高校生無料

主催： Rond・Korn Rondo Korno

連絡先： korno@esperanto.ne.jp 03-3429-5173 (きくしま)

郵便： 154-0022 東京都世田谷区梅丘 3-5-15 菊島和子気付

後援： 一般財団法人日本エスペラント協会 *Japana Esperanto-Instituto* (JEI)

● Rond・Korn Rondo Korno (「角笛サークル」の意味)は、1965 年 12 月 3 日視覚障害者を中心に設立。
首都圏の地域エスペラント会の一つとして、視覚障害者と視覚使用者とがいっしょに国際共通語エスペラント語
を学び、使用している。例会・学習会は、毎週木曜日 18:30～20:30 にエスペラント会館 4 階教室で。

国際共通語 エスペラント語 とは？ Kio estas Esperanto?

● **誕生日のある言語：**現在のポーランドの地(当時はロシア帝国)にいたユダヤ人眼科医ザメンホフ博士(L.L.ZAMENHOF 1859-1917) が創案し、1887 年 7 月 26 日に出版許可を得て発表した計画言語。国家・民族・言語や社会的・経済的・政治的背景を超えて、母語の異なる人々が平等・対等な立場で話し合うための第 2 言語として、130 年余にわたり、使い続けられている。ザメンホフ博士は、ユネスコの「2017 年に『没後 100 周年』を記念する人物」のひとりに選ばれた。

● **合理的で例外のない発音と文法：**一般の民族語に比べると習得が容易であり、同時に表現力も豊か。日本語を母語とする人でも、英語などの 100 分の 1 程度の労力で習得できると言って過言ではない。言語習得には努力が必要で個人差もあるが、週 1 回 2 時間 1 年間程度(実質 80～100 時間)の講習で、英語でなら中学校～高等学校卒業程度に習得できる。文字と発音が一致している上に母音が日本語と同じ 5 つで聴き取りやすく発音しやすいので、書籍だけでの独習でも実用でき、書き言葉と話し言葉が一致しているので会話に入りやすい。講習会のほか、**通信講座**(<http://www2.tokai.or.jp/esperanto/>)、**インターネット上の講座**(クルソ・デ・エスペラント日本語版 <http://kurso.com.br/index.php?ja>、レルヌ日本語版 <http://lernu.net/ja>、英語の知識を活用して学ぶエスペラント <http://plaza.harmonix.ne.jp/~sakat/> など)、**音声・ビデオ教材、独習用書籍、合宿形式の講座**など、学習の手段は多種多様。エスペラント文を読み上げる無料ソフトやパソコン用無料辞書(下記 JEI ホームページからダウンロード可)もある。2006 年 JEI 発行の『エスペラント日本語辞典』(B6 判 1,328 頁の中型辞典。2017 年 12 月刊第 2 版 本体 5,400 円)は充実した学習辞典。持ち歩きには大学書林発行『エスペラント小辞典』(520 頁、両引き、本体 3,800 円)が手軽。

日本各地の行事や学習機会・教材についてのお問い合わせは、一般財団法人日本エスペラント協会(JEI = Japana Esperanto-Instituto) 162-0042 東京都新宿区早稲田町 12-3 電話 03-3203-4581 ファクシミリ 03-3203-4582 電子メール esperanto@jei.or.jp ホームページ <http://www.jei.or.jp/> へ。

● **エスペ란ティスト(エスペラント語使用者)の数は？：**一般財団法人日本エスペラント協会は会員約 1,000 名、世界エスペラント協会(本部はオランダのロッテルダム <http://www.uea.org>)は個人会員約 4,500+団体会員約 8,500=約 13,000 名。しかし、この数はエスペ란ティストの中の組織化された一部に過ぎず、実際には 100 万人以上。世界中に散在しているので、エスペラント語を使うと世界中に友だちをつくれる。専門分野ごとの国際組織・情報交換網や都市・分野ごとの世話人網・家庭宿泊網も広く展開されており、活用の可能性は無限にある。いろいろな内容・対象の雑誌や、原作・翻訳での書籍の出版も盛ん。

● **国際行事で手軽に「地球人体験」を：**毎日、世界各地でエスペラントを使つての国際行事が開催されている(<http://www.eventoj.hu/kalendaro.htm> はエスペラント語行事の国際カレンダーの一つ)。どの行事も「通訳のいない国際会議」そのもの。日本の初心者も、国や言語の壁を忘れて「地球人」になれる。

最大の行事は**世界エスペラント大会**で、毎年夏の 1 週間に数十か国の 2,000～4,000 名の参加で開催され、日本からだけでも例年 200 名ほどが参加する。2017 年第 102 回は 7 月末に韓国のソウル市で 62 か国 1168 名で。2018 年は 7 月 28 日-8 月 4 日にポルトガルリスボン、2019 年はフィンランドのラハティ(Lahti ヘルシンキの北 100km)、2020 年はカナダのモントリオールで。若者だけの**国際青年エスペラント大会**は 1 週間の国際合宿で、2017 年の第 73 回は 8 月に西アフリカのトーゴのアネホ、2018 年はスペインのパダホスで。地域ごとの大会もあり、隔年の**アジア太平洋・エスペラント大会**は、2019 年第 9 回が 4 月にベトナムのダナンで。**日韓中越持ち回りの東アジア青年セミナー**も毎年開かれ、日本担当の 2017 年第 37 回は 12 月に大阪市、2018 年は中国で。**教員・教育者組織 ILEI**の大会も毎年で、2017 年第 50 回は世界大会直前に韓国のプサン、2018 年も世界大会直前にスペインのマドリッドで。ほかにもものんびり休暇を過ごす観光行事、エスペラント語を学ぶ行事、特定の課題での討論・研究行事など、大小・長短・多種・多様にある。一度参加したら初心者でも病み付きになること請け合い。国際恋愛・結婚が多いのも当然だ。

日本国内でも、全国大会や地方大会、学習中心の合宿などがあり、2018 年第 105 回日本エスペラント大会は 10 月 12-14 日に奈良で「**第 2 回日韓共同開催エスペラント大会**」として開催される。

● **世界中で家庭に泊まれる！：**エスペ란ティストを対象にした**国際家庭宿泊網**があり、自分は泊められない人でも外国の家庭に宿泊でき、家族のように迎えられる。お礼は「エスペラントで話して情報交換すること」。日本に居て、遠い国からのお客を泊めたり案内したりするのも楽しい。だから、若者ばかりでなく、定年退職後に学習を始めて一味違う「国際的な生活」を楽しむ年金生活者も多い。